

人間社会学部

試験問題冊子

(B日程 2月19日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 〜 14、記述式解答欄の A 〜 J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

思考の出発点は、何をおいても問いを立てることに他なりません。他者と議論をしているときや読書をしているときに、「どうして〜なのか?」「そもそも〇〇とは何なのか?」と問うことによつてこそ、初めて人間の思考は能動的に働き始めます。

「問い」には、思考をユウハツする力があります。したがって、「自ら思考する力」を鍛えていくためには、議論や読書の最中に「問いを立てる力」を身につけていく必要があるのです（他者に対してだけでなく、自分に対しても問いかける必要があります）。

また、いきなり自分一人で考えるのではなく、必ず何か信頼のできる本を読んだり、自分よりも経験のある人から話を聞いたりしながら考えるという習慣をつけることが大事です。なぜなら、自分一人だけの思考では、すぐに思考の幅に限界が来てしまうからです。

しかし、だからと言って、「何でも問いを出せばいい」というわけではありません。

〈中略〉

さらに、「そのように問いを立ててしまったら、早い段階で答えが出て議論が途絶えてしまう」という問いもあります。例えば、「趣味は人それぞれ違うものか?」という問い方をしてしまうと、基本的には「人それぞれである」という答えしか出てこないでしょう。

また、「いじめは悪いことか?」という問いを立てるだけだと、「悪い」という当然の答えが出て終わるだけでしょう。必要なのは、例えば「多くの人に好まれる趣味とそうでない趣味との間では何が違うのか?」「本当に『いじめ』という言葉を使い続けることが適切なのか?」などの、議論を進展させるための問いなのです。

それでは、日常生活の中で思考したり、読書をしながらか思考したりするときに「導きの糸」となるような問いとは、どのようなものでしょうか?

ここでは、「思考の出発点」となる九つの問いを提示してみます。

「思考の出発点」として紹介する一つ目の問いのパターンは、「普遍性をめぐる問い」です。普遍性とは、簡単に言えば「a」を意味します。そして、私たちはフォーマルなパブリックな場面で何らかの主張を行うとき、「その主張はどこまで広く当てはまるのか（普遍的なのか）?」ということが必ず問われます。そのため、「自分の思考の普遍性」を自らチェックするための問いが必要になります。

一つ目の問いは、「それは、本当に他のすべての事柄に当てはまるのか?」（「事例」の普遍性をめぐる問い）というものです。ある一定の普遍性をソナえた思考を展開するためには、何よりもまずこの問いを自他に対して提出する必要があります。なぜならこ

の問いは、私たちの思考を修正・限定してくれる力を持っているからです。

生半可な意見を提出しても、この問いを乗り越えることはできません。「これはみんな言っていることなんだ（普遍的なのだ）！」と主張したとしても、大抵の場合、それは根拠のない断言になってしまうでしょう。なぜなら、よほど強力な根拠のある主張でない限り、「他のすべての事柄に当てはまる」ような判断などはそうそう存在しないからです。ですが、「すべての人はみな死ぬ」といったあまりにも基礎的な意見を集めても、何か積極的な思考を行うことはできません（それだけで議論が発展することはないからです）。

普遍性を維持しつつ、意味のある積極的な思考を行うためには、適切に自らの説を限定していく必要があります。b、これはそんなに難しい話ではありません。例えば、「○○というスーパーは安い」という判断に対しては、「他の地域においても同様なのか?」、「高い曜日もあるのではないか?」という問いに答える形で、一定の修正を加えていく必要があります（例：「○○というスーパーは、△△と□□という条件があるときに、安くなる」）。他にも、「本を読めば必ず人は頭が良くなる」という主張に対しても、普遍性を維持するためには、同様の限定を加えていく必要があるでしょう（例：「○○のジャンルを、△△の仕方を読めば人は頭を良くすることができる」、「『どのよう
な読み方をして頭が良くなる』というわけではない」）。

こうした普遍性をめぐる問いに取り組む一番の利点は、「思考の抜け漏れ」を防ぐことができる点です。人間の知性は有限ですから、私たちは何かを考える際にどうしても「抜け漏れ」を出してしまいます。ですから、「思考の抜け漏れ」を点検するための思考習慣をしつかりと身につけることが大事なのです。

二つ目の問いは、「なぜそう言えるのか?」（「根拠」の普遍性をめぐる問い）というものです。この問いは、「主張内容と、その根拠との間のc」を点検するときに必要な問いです。

例えば、「子どもは基本的に母親になつくのだから、育児は母親がすべきだ」という主張があるとします。この主張の背後には「c」があります。なぜなら、子どもがお母さんになつきやすいからと言って、「育児は母親（女性）がするものである」という主張には繋がらないからです（当然男性もすべきです）。「なぜそう言えるのか?」という問いは、こうしたcや、「育児は女性がするものである（≡男性はしなくてよい）」という暗黙の前提を暴き立てることができるのです。

そして多くの場合、「なぜそう言えるのか?」という問いに答えることは容易ではありません。この問いに直面したとき、多くの人は「だってそうだから」と同じ主張を繰り返すことになるでしょう。こうした返事の仕方を「d」（トートロジー）と言います。トートロジーとは、何の情報も付加せず、同じことを繰り返すだけの言葉です（例：「女性が育児をすべきだから、女性が育児をすべきである」）。これでは積極的な意味で思考をしているとは言えません。トートロジーのジュンカン³から抜け出すためにも、私たちは「なぜそう言えるのか?」という問いを発することを通して、自らの主張内容を批判的に吟味する必要があります。

三つ目の問いは、「そもそも、○○とは何だろうか?」（「定義」の普遍性をめぐる問い）というものです。この問いは、物事の本質を捉えるときに必要な問いです。

例えば、「社会の不正を正さなければならない」と述べる人がいるとしましょう。この主張自体には、もちろん何の問題ありません。ですがその際に、「不正」という言葉の理解が曖昧⁴であつたら、その主張はあくまで形式的なものにとどまってしまう。「不正とは何か」ということを理解するためには、「そもそも、正義とは何だろうか?」ということを真正面から検討しなければならないでしょう。例えば、「正義」とはすべての人に公平な機会を与えることでしょうか? それとも平等な結果を与えるものでしょうか? あるいは、別の何かが「正義」と呼ばれるのでしょうか? こうした探究をしない限り、「社会の不正を正さなければならない」という主張は、空疎⁵なものにとどまってしまうのです(なぜなら、何を達成すればいいのか、未だ検討されていないのですから)。「○○とは何か?」という問いは確かに抽象的で難しいものですが、説得力のある議論を展開するためには、こうした「そもそも論」を正しく問うことが必要なのです。

以上、普遍性をめぐる三つの問いを駆使することによって、私たちは自らの思考の範囲を拡大することができます。そして、その思考の範囲が数多くの事例に当てはまるか否かを判断していくことによってこそ、「e力」が徐々に鍛えられていくのです。

〈後略〉

(山野弘樹『独学の思考法 地頭を鍛える「考える技術」』)

問1 傍線部1～3のカタカナを漢字に直し、傍線部4、5の漢字の読みをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1	A	2	B	3	C	4	D	5	E
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問2 傍線部ア「導きの糸」となるような問い」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① 自分よりも経験のある人が考えた、複雑で難解な問い
- ② すぐに議論が途絶えることのない、思考をめぐらすための問い
- ③ すでに道筋がわかっている自然な流れで展開する問い
- ④ 一般的な法則に従って思考が進んでいくような問い

問3 空欄aに当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① 当てはまる範囲が明確であること
- ② いくつかのものに共通した要素を持っていること
- ③ 事柄が互いに調和しやすく、結びつきやすいこと
- ④ いつでも、どこでも、誰にでも当てはまること

問4 空欄 に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① とはいえ
- ② すなわち
- ③ なぜなら
- ④ さらに

問5 空欄 に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 通説
- ② 対立
- ③ 調和
- ④ 飛躍

問6 空欄 に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 三段論法
- ② 同語反復
- ③ 同音意義
- ④ 異口同音

問7 空欄 に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 誰かに伝える
- ② 素早く解決する
- ③ 自ら思考する
- ④ 物事を理解する

問8 筆者の主張として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 普遍性をめぐる三つの問いとは、事例の普遍性、根拠の普遍性、理解の普遍性の問いである。
- ② 普遍性をめぐる三つの問いは、自らに発するものであり、他者に発するものではない。

- ③ 普遍性をめぐる問いを駆使することで、思考を適切に限定するだけでなく、その範囲を拡大することができる。

- ④ 「そもそも論」を問うことは、普遍性をめぐる三つの問いを形式的なものにするための出発点となる。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

「無駄^ア」とはそもそもどういうことなのだろうか？ 誰でも当然のように使う言葉であるが、あらためて考えてみるとよく分からない。この「駄」という字は駄菓子、駄作、駄洒落のような言葉に使われるので、たしかにつまらないものというネガティブな意味を帯びている。「駄」とは荷物を運ぶための馬のことで、それは乗馬に使えないから荷役に使うしかない、つまり馬として価値が低い、ということから来るのだろう。そして「無駄」とは、その荷役用の馬に何も荷物を乗せないことからその意味が生じたという説があるが、これは語源の説明によくある俗説らしい。漢字には当て字が多いので、古い日本語を漢字の意味から説明する語源説には注意しないといけない（もっともそういう俗説も無駄の精神からすると面白いのではあるが）。それはともかく「無駄」とは本当はどんな言葉から来たのか。実ははっきりしたことは分からないが、「無駄」という漢字は当て字で、「空^{むな}しい」「虚^{むな}しい」のムナという音に關係があるのではないかと想像される。だとすると無駄の本来の意味とは、むしろ何も無いこと、空虚であることに近い。この空虚とは、かならずしもあるべき何かが無如しているという状態ではない。すなわち役に立つ／立たないという二項対立において「役に立たない」側にあるわけではなく、そうした対立軸が成立する以前の状態を指しているのである。

こうした本来の意味での「無駄」は、仏教の中心的概念である「シュニーヤ」に近いのではないかと私は考えてきた。シュニーヤというのは『般若心経』に出てくる「色即是空」の「空^{くう}」のことである。これも現代人の多くは「感覚的な快樂や幸福は空しい」といったネガティブな意味に理解しているかもしれない。それだと人生も空しくなってしまう。ペシミズムのようになってしまふ。しかし「空」というのはむしろ、感覚的経験を通じて人間があれこれと意味づけて考えたり行動したりする前の、潜在的な状態のようなことを指しているのではないかと思う。子供の頃から仏典を読み続けてきただけで、仏教を深く知っているわけではないから偉そうなことは言えないが、「空」というのは、それ自体からは直接何の実際的効果も出てこないが、それが刺激されたり何かに触れたりすることによって、多様なものがそこから生成される、エネルギーの充滿した潜在状態のようなものを指すのではないだろうか。即効性がないからといって単純にそれを「不要」とする現代的態度では、こうした潜在状態の存在はみえない。こうしたことを「無駄」という概念と結びつけて考えることは、現代の社会状況からして、無駄ではないと感じるのである。

こうした、価値や判断^イが発生する以前の未分化な状態を持つことが、知能の可能性を支える必須の条件ではないかと思う。そのことは、人間の知能でも人工知能でも同じことではないのだろうか。人間の場合で言えば、子供の時には十分に遊び、学校では実用性があるのかないのか分からないような知識を広く学ぶことが、かつては柔軟な知能を鍛える基礎となっていた。だが残念ながらここ三〇年くらいは、子供は遊ぶ余裕を奪われ、また大学の教養課程が廃止されたことから分かるように、学校も役に立つ知識のみを効率的に教えることによって、知的なパフォーマンスを最大化させようという方向に進んできた。つまり「無駄」をハブく¹という方向に進んできたわけだが、これは別な言い方をすれば、AI^{註1}のような優秀な人間を製造しようとしてきたことになる。だが、

人間はAI的な存在としては、本物のAIに勝てるわけがないのである。一方現在のAIも、そうした人間がここ三〇年くらいの間に吐き出してきた膨大な思考のコンセキに²影響されている。ChatGPT^{注2}が私たちに返してくるメッセージが、まるできわめて優秀な人間が書いた回答のようにみえるのは、私たち人間自身がそうした存在であることを欲望しているからである。人工知能はそうした人間の姿を映し出すことで、合理的推論や問題解決は自分たちが引き受けるから、人間はもっと違うことをやりなさいと言っているように、私には思える。「違うこと」というのは、いつてみれば知能における未分化な状態、遊びの状態を回復することであり、a。

そういう考えから「無駄」の研究」を行なってきたのだが、それは私にとつては、人工知能の現代において人間は何をすべきか、という問題の探究でもあったのである。

吉森保氏が研究されているのはオートファジーという現象である。オートファジーというのは「自分を食べる」という意味で、これは生物の細胞が少しずつ自分自身の一部を壊してはまた作り直すという活動をしていることを意味する。吉森氏の共同研究者である大隈良典氏が、この研究で二〇一六年にノーベル生理学・医学賞を受賞された。だがオートファジーという現象そのものは、一九五〇年代から観察されていたのである。最初にオートファジーの研究を始めたのはクリスチャン・ド・デューヴというベルギーの生物学者で、リソソームを発見した人だと、高校の生物の授業で教わった記憶がある。つまりオートファジーは人工知能の研究と同じくらい以前から研究されていたわけであるが、なぜ最初のうちは大きく注目されなかったのだろうか。それは、細胞が自分自身の部品を少しずつリサイクルする現象なんて、一部の生物学者にとっては面白いかもしれないが、何の役に立つんだと思われていたからである。つまりそんなこと研究しても「無駄」とみなされていたわけだ。けれどもその後、細胞の分子機構が詳しく解明されてゆき、しだいに多くの人が研究するようになり、大隈氏がそのことでノーベル賞を受賞したことで広く注目されるようになった。その結果、オートファジーというメカニズムを活用すれば病気を予防したり、健康³ジュミヨウを延ばしたり、美容やアンチエイジングにも効果があるという可能性が出てきて、その研究は「役に立つ」とみなされるようになったのである。

それはもちろん結構なことなのだが、そうすると最初の頃の、まだ海のものとも山のものとも分からないような模索の時期が、たんに後の大成功に結びつく萌芽時代⁴としてのみ評価され、一見無駄にみえたが本当は無駄ではなかった、先見のbがあったというふう⁵に解釈されてしまう。言い換えれば、成功によって「無駄」の意味がみえなくなってしまう。美学的に見ると、子供の頃は誰からも相手にされなかった主人公が、何かのきっかけで大化けしてヒーローになるというドラマの構造と同じである。そこでは、修業時代の「無駄」は、すべて後の成功によってのみ意味づけられる。つまりは後付けの解釈なのである。こうした「無駄」の賛美は、成功者を讃⁵える言葉としては意味があるかもしれないが、それに基づいて未来の計画を立てるのは不合理である。つまり、将来成功しそうな研究や事業にだけ投資するという方針——いわゆる「選択と集中」——は、たんに現実とドラマとを混同しているだけなのである。なぜなら、未来とは本来分からないものだからだ。予測できるのはごく一部であり、ほとんどは予測できないか

ら「未来」なのである。それをあたかも現在のデータからすべて予測可能であるかのように錯覚するのは、人間が自分の思考を中途半端にAI化してきたからである。未来はAIにも分らないし、むしろAIはそのことを知っている。能力の低いAIとしての人間が、AIを使えば何でも分かるかのような幻想を抱いているだけなのである。

(吉岡洋『AIを美学する なぜ人工知能は「不気味」なのか』)

注1…AI 人工知能

注2 : ChatGPT アメリカの OpenAI 社による人工知能を使ったチャットサービス

問1 傍線部1～3のカタカナを漢字に直し、傍線部4、5の漢字の読みをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1	F	2	G	3	H	4	I	5	J
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問2 傍線部ア「無駄」について、筆者はそもそもその意味を何と考えているか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① 乗馬に使えないから荷役に使うしかないというように、価値が低いこと
- ② つまらないものというネガティブな意味
- ③ 何かの刺激によって多様なものが生成されうるような潜在的な状態
- ④ 「空しい」「虚しい」に関係するような、何もない空虚

問3 傍線部イ「価値や判断が発生する以前の未分化な状態を持つことが、知能の可能性を支える必須の条件ではないか」と筆者が考える理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① 効率性が必要であるのは、人間の知能でも人工知能でも同じだから
- ② 知識を広く学ぶことが、柔軟な知能を鍛える基礎だから
- ③ 実用性があるのかないのか分からないような知識を学ぶことは無益だから
- ④ 知的パフォーマンスを最大化させる努力がうまくいったから

問4 空欄 a に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① 本来の意味における「無駄」を取り戻すことである
- ② 本来の意味における「空虚」を取り戻すことである
- ③ AIのような優秀な人間になることである
- ④ AIの能力のすきまをうめることである

問5 傍線部ウ「オートファジーという現象」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 11

- ① 死んだ生物を生き返らせる現象
- ② 発見当初から究明が期待されていた現象
- ③ 自分の一部を食べて壊し続けてしまう現象
- ④ 自分自身の部品を少しずつリサイクルする現象

問6 空欄 b に当てはまる語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 12

- ① 明
- ② 目
- ③ 知
- ④ 才

問7 傍線部エ「それ」が指す語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 13

- ① 「無駄」の意味
- ② 修業時代の「無駄」
- ③ 後付けの解釈
- ④ 選択と集中

問8 本文の趣旨に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 無駄なことをAIに任せることで知的なパフォーマンスを最大化できる。
- ② AIのような優秀な人間を育てることで無駄をなくし、未来が予想できるようになる。

- ③ 将来成功しそうな研究や事業に投資するためには、無駄の贅美が役に立つ。
- ④ AIが普及した現代において、人間が無駄な活動を行うことにも意味がある。

(以上)